

彩の歳時記

平成二十六年 五月

「ほととぎす」は、カツコウ科の鳥類で「特許許可局・テツペンカケタカ」など特徴的な鳴き声と鶯などに托卵する習性で知られ、古来から様々な文書に登場「**杜鵑、時鳥、子規、不如帰、杜宇、蜀魂、田鵲**」など異名も多くあります。正岡子規・創刊の俳誌『ホトトギス』は郷里の後輩・高浜虚子に受け継がれ、夏目漱石『我輩は猫である』や伊藤左千夫『野菊の墓』を掲載。句の作者の久女は鹿児島県生まれ。浪漫的・情緒的な俳句で「ホトトギス」黄金時代に活躍、女性が粹を越えて「**ほしいまゝ**」に振舞うと厳しい制裁が待ち受けていた時代、「**ほしいまゝ**」に生きてみたいと思っていたのでしよう。女性だけの俳誌『**花衣**』を創刊しますが5号で廃刊、『ホトトギス』も除籍されてしまいます。田辺聖子の伝記小説『**花衣ぬぐやまつわる…**』が**愛の杉田久女**は

杉田久女【1890～1946】



「ほととぎす」は、カツコウ科の鳥類で「特許許可局・テツペンカケタカ」など特徴的な鳴き声と鶯などに托卵する習性で知られ、古来から様々な文書に登場「**杜鵑、時鳥、子規、不如帰、杜宇、蜀魂、田鵲**」など異名も多くあります。正岡子規・創刊の俳誌『ホトトギス』は郷里の後輩・高浜虚子に受け継がれ、夏目漱石『我輩は猫である』や伊藤左千夫『野菊の墓』を掲載。句の作者の久女は鹿児島県生まれ。浪漫的・情緒的な俳句で「ホトトギス」黄金時代に活躍、女性が粹を越えて「**ほしいまゝ**」に振舞うと厳しい制裁が待ち受けていた時代、「**ほしいまゝ**」に生きてみたいと思っていたのでしよう。女性だけの俳誌『**花衣**』を創刊しますが5号で廃刊、『ホトトギス』も除籍されてしまいます。田辺聖子の伝記小説『**花衣ぬぐやまつわる…**』が**愛の杉田久女**は

五月の異称

五月、早月、臯月「臯」は「気が澄み渡る」の意。

植物の「サツキ」はサツキツツジ（臯月躑躅）などとも呼ばれ、他のツツジに比べ一ヶ月程度遅く、一斉に咲き揃う。全国一のさつきの産地として有名な栃木県の**鹿沼市**では、55日(土)より十日間「**さつき祭り**」開催される。

五月の暦

一日 **メーデー** 1886年(明治19年)にアメリカ・シカゴでの労働者のストライキが始まり。

二日 **八十八夜** 雑節。立春から八十八日目。一番茶摘みの頃。「**夏も近づく八十八夜**」を行なう。

三日 憲法記念日(国民の祝日)1947年(昭和22年)に施行。三つの柱は「国民主権」「基本的人権の尊重」

四日 **みどりの日(国民の休日)** 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し豊かな心をはぐくむ。目には**青葉** **山ほととぎす** **初鯉** **山口素堂**【1642～1716】

四日 修司忌

「言葉の錬金術師」の異名を持つ寺山修司【1935～1983】の忌日。

歌人、演出家、映画監督、小説家、作詞家、脚本家、随筆家、俳人、俳優、写真家などとしても活動、膨大な文芸作品を発表した。「書を捨て街に出よ」など「箴言集・アフオリズム」も有名。第一詩集「われに五月を」。歌集「田圃に死す」は映画化。



マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国はありや

二十才 僕は五月に誕生した
僕は木の葉をふみ
若い樹木たちをよんでみる
いまこそ時
僕は僕の季節の入り口で
はにかみながら鳥たちへ
手をあげてみる
二十才 僕は五月に誕生した

五日 **こどもの日(国民の祝日)** **端午の節句** もとは中国伝来の**菖蒲**や**蓬**を軒先さし

邪気を払う日。柏餅(柏の葉は新芽が出ないと古い葉が落ちない縁起物)を食べ、菖蒲湯に入る。初節句には両家の祖父母を招いて、お祝いをする事も。



五日 **立夏**【二十四節気】春分と夏至の中間に当たる。気温は高くなるが湿度は低く過ごしやすい。

十一日 母の日【第二日曜日】 **日野草城**【1901～1956】

十六日(金)～十八日(日) 三社祭(浅草神社) 江戸っ子の血が宮出しへ沸く五月

二十一日 **小満**【二十四節気】 麦などの穂がつき(少し満足)するの時期。

五月の歌

カツコウ 『かっこう Kuckuck, Kuckuck, ruff's aus dem Wald』は



カツコー 小林純一
カツコー 静かに
呼んでるよ 霧の中
ほら ほら母さん
カツコー 静かに
呼んでるよ 霧の中
ほら ほら朝だよ

ドイツ語圏の子供向けの歌。英語版は『The Cuckoo』。原詩は「かっこうかっこう 森から呼ぶ声が歌おう 踊ろう 飛び跳ねよう」。日本語の歌詞は大浦正美訳と小林純一訳がある。